



での滝とちがって、登りやすいものばかりである。なかに10m程の滝が2つあるが、いずれも中央を直登する。そのほかの5mクラスの滝もすべて直登可能である。

チョロチョロの流れとなって1時間余りで、とうとう水も涸れてしまった。沢はもう細いミソと変わり、ヤブのがかぶさっている。そしてすぐ源頭の草付となった。急傾斜の草付は滑りやすく、所々の灌木や小さな岩場などをひろいながら、歩きやすい部分を選んで登る。登るにつれて茶臼岳も見え出し、まぼろしの滝といわれる御沢の滝もその姿を現した。草付が終わると、腰～胸あたりのクマザサのヤブこぎとなる。草付のあたりと違って、傾斜がやや緩くなってきており、それほど苦勞はない。クマザサにシャクナゲやハイマツが混ざると、稜線はすぐ間近。五泉の泉のすぐ西側の小ピークに飛び出す。

(記

[タイム] 大沢出合(6:00)→西沢出合(7:00)
→二俣(8:00)→左俣終了(9:50)→
稜線(10:40)

大沢右俣 1992年9月23日

小さな池塘である五泉の泉から、大沢右俣めざして下降開始。最初は滑りやすい草付で、

充分注意しているつもりでも尻もちをついてしまう。5分程下るとルンゼ状となって歩きやすくなった。

やがて水がチョロチョロと流れるようになった。そして小滝が出て来る。最初

の5m滝は、右岸の草付との境を下り、10m滝はスタンスを拾いながら慎重にクライミングダウンする。花崗岩の沢であるが、なかなか滑りやすい。

沢はやがてどうぞ滑って下さいといわんばかりの程良い傾斜のナメと変わった。遡るならどうということもないナメであるが、下りはなかなかやっかいな傾斜である。灌木をつかみ、足場を拾いながら慎重に下るが、それでも2～3度滑ってしまった。

ナメが終わると滝である。ここも登るならそれほど苦労はなさそうだが、下るとなるとやっかいな滝ばかりである。最初の5mは右岸のブッシュ帯を下り、次の7mはシャワーを浴びながら右岸をクライミングダウンする。そしてその先の30m滝は、とうとうザイルのお世話にならざるを得なくなった。2回に分けて懸垂下降である。灌木や残置ハーケンに真新しいシュリングが残されており、ごく最近ここを下ったパーティがあるようである。その下の20m滝も、ザイルの長さいっぱいの懸垂下降で下る。ここが右俣の核心部である。すぐ右手から左俣が合流する。

左俣と合流した後は、今朝遡った部分である。滑りやすい岩に注意しながら下る。二俣と20m滝の間にある7m滝は懸垂下降。そして20m滝は右岸を捲いて下る。あとはゴーロ帯を歩き、最初の砂防ダムの所で、右岸の林道に上がって、終了とする。 (記・)

[タイム] 五泉の泉(10:45, 10:55)→二俣(13:30)→西沢出合(14:45)→下降終了(14:55)

大川支流上ウミ沢左俣 1992年7月26日

L!

12時10分、上海山南方の標高1438mのピークから下降開始。4m滝の上で沢に出る。このあとしばらくは河原状の沢の下降が続く。途中左岸から10mの滝となって支沢が入っているが、それ以外は小さなガリー状のものが合流するだけであった。

やがてナメが出てきて、その下に3mの滝。これを越えると今朝方遡行した右俣との出合であった。下の林道の橋まで下り、下降終了とする。()

[タイム] 下降開始(12:10)→右俣出合(13:20)→下降終了